

「学び合い、考えを深め、高め合う子どもの育成」  
～ICTを活用した主体的で対話的な学びのあり方～

I 研究の内容

1 研究の具体的内容と方法

(1) 研究の内容

ア ICT機器を活用した学び合いや考えを高め合う授業づくり

- ・各教科において、ICT機器の効果的な活用を工夫する
- ・実践を公開し合い、授業力を高める

イ 学習環境づくり

- ・学習集団づくり…学級力向上プロジェクトの活用，Q-Uの活用
- ・学習習慣の確立…学習規律の徹底
- ・さわやかタイムの有効活用，家庭学習の充実

(2) 研究の方法

ア 基本的には全体会での研究を行うが，内容によってはブロック（低学年，高学年）に分かれて研究を深める

イ 研究授業をブロックごと1本行う（指導主事招聘）

ウ 一人一実践の授業公開を行う（ブロック内で参観し合う。）

エ ICT機器の活用に関わり，学習会を設けたり，日常的に学び合ったりする

2 研究実践

(1) 理論研究【5月，6月】

ア 「ICT機器の活用に向けて」edutabの設定・活用法の学習会

講師 古屋 達朗教諭

イ 「主体的・対話的な学び」

講師 峡東教育事務所 指導主事 三森公仁先生

(2) 研究授業【10月，11月】

ア 第2学年道徳 「こまのプレゼント」 授業者 武藤 有希教諭

指導助言 義務教育課しなやかな心の育成担当 指導主事 小尾 綾先生

イ 第4学年特別活動「学校のルールを考えよう」 授業者 向山 潤教諭

指導助言 義務教育課しなやかな心の育成担当 主幹・指導主事 丹澤一浩先生

(3) 授業実践【11月～1月】

ア 第1学年図画工作科「でこぼこ はっけん」 那須 美佳教諭 阿部かおり教諭

イ 第3学年国語科「説明の工夫について話し合おう」 坂本 由香教諭

ウ 第5学年道徳「マラソン大会」（信頼と思いやり） 内藤 健教諭

エ 第6学年学級活動「“あたりまえ”の“ちがひ”について考えよう」 古屋 達朗教諭

オ 第4学年・6学年自立活動「お家の方にメッセージカードを届けよう」 小林 光三教諭

カ 第4学年算数科「大きい数の計算を考えよう」 加々美教諭

キ 第1学年音楽科「ことばのリズムをうとう」 阿部かおり教諭

ク 第6学年理科「てこのはたらき」 武井 文明教諭

- ケ 第4学年社会科「県の地図を広げて」 藤波 貴教諭
- コ 第5学年英語科「都道府県で遊ぼう」 小池 美樹教諭
- サ 第2学年音楽科「おまつりの音楽をつくろう」 雨宮 雄貴教諭

## II 成果と課題

### 1 成果

- (1) ICT機器を使うことで、情報の共有や思考の共有が容易になり、考えを深めたり高め合ったりする子供の姿が見られた。
- (2) 研究授業やそれぞれの実践において、意欲的に学び合い、考えを高め合う子どもが育っていると感じた。
- (3) 研究授業後の研究会では、ワークショップ形式による話し合いの中で、ICTの有効性や課題が明確になった。
- (4) ICTをどの場面で活用できるか考えることで、普段の授業の中に取り入れることができると感じた。授業を公開し、参観し合うことで、今までにない活用方法について学ぶことができた。
- (5) 今年度、タブレットの追加導入、無線ネットワークの整備等、情報教育の学習環境が向上したことで、今後、授業の活性化や授業の中での機動力のあるICTの活用が期待できる。
- (6) 学級力向上プロジェクトの活用、Q-Uの活用を行うことで、客観的に学級をふり返ることができ、学級経営に生かすことができた。
- (7) 家庭学習（5・6年生の「授業のふり返り」）や学習規律など、中学校との連携もふくめて考えることができた。

### 2 課題

- (1) ICT機器を活用することがメインになってしまわぬよう、学習目標達成の為のツールという位置づけを忘れずに意識し、授業に取り入れていく姿勢を忘れてはいけないと感じた。
- (2) ICT機器の効果的な活用については児童の実態に合わせ行うようにしたが、1単位時間の中でICT機器の活用し、考えを高め合うことをねらうことが難しいことも多かった。
- (3) 特別支援学級でのICT機器の活用法について積極的に方途を探っていきたい。
- (4) 各学年の「さわやかタイム」について情報交換する機会を定期的に設け、振り返る必要がある。また、「さわやかタイム」の取り組みについて再度検討していく必要がある。
- (5) 家庭学習カードを記入することで意識しながら取り組むことができるようになりつつあるが、家庭の協力を得るためのアプローチやどのようにして家庭学習を充実させるかが難しい。また、カードを記入することが形式的になってしまっているため、内容の充実につながるような工夫を講じていきたい。
- (6) 一人一実践の授業公開は、授業や指導と重なってしまい参観できないことがあった。

## III 成果物

- 1 研究授業、一人一実践の授業案
- 2 家庭学習の手引き（低、中、高学年家庭配付用）
- 3 学習規律（小中で連携する「学習のきまり」も含めて）
- 4 学習会に招聘した講師からご提供いただいた資料

（研究主任 藤波 貴）